



心新たに 大人への一步
～平成23年竹原市成人式～

1月8日、市民館で成人式が開催され、新成人303人の門出が祝われました。今年も、新成人による実行委員会が様々な企画を用意し、式を盛り上げました。

「社会の一員として責務を果たしたい。」

と新成人を代表して、宗本啓志さんと下迫葉さんが誓いのことばを述べ、式典を締めくくった今年の成人式。その舞台裏では、引き続き行われるアトラクションの準備に追われる実行委員の姿がありました。

「緊張してきました。どうしよう。」

「あれはどうする？」
この日のために10月から企画し、準備を進めてきた実行委員。当日はご当地クイズの出題とビデオレターの上映を行いました。会場の新成人はクイズで盛り上がり、先生からの心あたたまるメッセージに、竹原で過ごしてきた日々を懐かしく感じている様子でした。

実行委員の一人で、式典の司会を務めた森岡智子さんは、

「クイズはみんなが参加できるように工夫しました。楽しんでもらえたようで嬉しいです。まだ大人になった実感はないですが、社会人として必要なことを学んでいきたいです。」と話してくれました。



子どもの夢を応援するサッカー教室
～竹原っこ夢プロジェクト&サンフレッチェ広島ホームタウンふれあい活動～



1月8日、バンブー公園でふるさと納税を活用した「竹原っこ夢プロジェクト」が行われ、サンフレッチェ広島のコーチ4人によるサッカー教室が開催されました。市内の小・中学生68人が竹原市出身の渡辺康則コーチなどから実技指導を受けました。また、身近で見えた選手の例から、練習の大切さを子どもたちに教える場面もあり、夢をかなえるために日々の努力が必要なることを伝えました。

1月19日には、大乘小学校をサンフレッチェ広島の高萩洋次郎選手と石川大徳選手がコーチ・スタッフと共に訪れ、児童とふれあいました。

将来、サッカー選手になることが夢という5年生の中島悠作くんは、

「選手とゲームをして、普段できないことができて良かった。プロの選手はうまくてボールがとれなかった。」と、貴重な体験をしたことを話してくれました。最後に、「みんなに元気をもらいました。これからも応援よろしくお願いします。」とあいさつした選手の2人。子どもたちに元氣と夢を与えてくれました。

パ・リーグ審判員 市長を表敬訪問

1月5日、市役所で、パ・リーグ審判員の山路哲生さんが、市長を表敬訪問しました。竹原市出身の山路さんは、平成16年にパ・リーグ公認審判員に合格。平成22年には、パ・リーグ開幕戦で球審を務めるなど、活躍されています。



県知事と意見交換

1月7日、市内で県・市町懇談会が開催され、湯崎知事が竹原工業・流通団地、電源開発(株)竹原火力発電所、道の駅たけはらを視察し、市長と直接意見交換を行いました。

道の駅たけはらで行われた意見交換では、広島県が進める「瀬戸内 海の道構想」に関する取組み、港湾整備、企業誘致の推進、広島空港へのアクセス強化、大久野島の活性化及び毒ガス障害者への援護措置について意見を交わしました。

今年も人々の安全・安心を守ります

1月9日、バンブー公園で消防出初式が開催され、消防活動に貢献した団員への表彰や分列行進、公開訓練などが行われました。式の最後を締めくくったのは、団員等による一斉放水訓練。新年を飾る色とりどりの水が放たれました。



「竹」で卒業証書を作ろう

1月20日、竹の駅で、中通小学校の6年生26人が竹の皮の繊維を使って紙すきを行い、卒業証書を作りました。乾かして和紙ができると、児童からは「おお〜!」という驚きの声。3月の卒業式では、自作の卒業証書を受け取ります。



地域の力で 不法投棄物撤去

1月23日、多量の不法投棄物による汚水の流出が懸念される東野町柏野配水池付近で、東野町の住民約50人、仁賀町の住民約40人が参加して、自治会、地元企業、市の協働で、不法投棄物撤去作業を行いました。

当日は、不法投棄された家電リサイクル品をはじめ、多くのゴミを撤去しました。今後は、監視カメラや不法投棄禁止看板を設置し、再発防止に取り組みます。

不法に捨てられたゴミは、地域の環境を壊しています。そのことを理解して、一人ひとりが住みよい環境づくりに取り組むことが大切です。

地元産品 勢ぞろい

1月23日、吉名小学校で都市と農村の交流事業「吉名よがんすのお〜祭り」が開催され、牡蠣ラーメンやじゃがいもコロッケなどの地元産品が登場しました。ステージでは、吉名中学校の生徒などが野菜を使ってうさぎの絵を描きました。

